

# 大学生のコミュニティ感覚は 精神障害者に対する偏見と関連するか？

○大高庸平（和光大学大学院） 伊藤武彦（和光大学）

【問題】精神障害者が地域で人間らしい生き生きとした生活を実現するためには、偏見や差別がなく、人間関係の豊かな地域コミュニティに受け入れられることが鍵である。それはコミュニティ内におけるメンバー間のつながりの強さであり、コミュニティ感覚として表される。つながりの強さに見られる互いに尊重しあう相互の関係は、精神障害者に対する人間らしいイメージや、実際の受け入れに関する行動を促進するだろう。コミュニティ感覚はコミュニティに所属する精神障害者の生活の質を高めることにつながっていく。

【目的】本研究の目的は関係的コミュニティに属する大学生に対し、コミュニティ感覚と精神障害者に対する偏見との関連を検討することである。

【方法】**実験協力者**：大学生 217 名（男性 102 名、女性 78 名、無記入 18 名、有効回答率 91%）、平均年齢 20.4 ( $SD = 1.64$ )。 **質問紙**：北岡（東口）ら（2001）による精神障害に対する態度 (Attitudes toward Mental Disorder: AMD) 尺度における 2 下位尺度 20 項目と、笹尾ら（2007）に紹介されている Sense of Community Index (SCI) 尺度の日本語版を大学生を対象として質問項目に変更を加えた 4 下位尺度 12 項目を 2008 年に実施した。

【結果】 Fig. 1 のように SCI 尺度主成分は、社会

的距離に対する回帰係数 ( $\beta = -.20$ ) が有意であったが、イメージ尺度との関連は見られなかった。

社会的距離得点では SCI 尺度上位群 ( $N = 101$ ,  $M = 2.45$ ,  $SD = .54$ ) は下位群 ( $N = 97$ ,  $M = 2.69$ ,  $SD = .66$ ) よりも有意に低く ( $t(196) = -2.874$ ,  $P = .028$ ) 偏見が少ないという結果であった。しかし、イメージ尺度得点では SCI 尺度上位群 ( $N = 101$ ,  $M = 2.41$ ,  $SD = .52$ ) と下位群 ( $N = 97$ ,  $M = 2.42$ ,  $SD = .57$ ) との間に有意差がなく ( $t(196) = -.238$ ,  $n.s.$ ) 偏見の度合いの差が見られなかった。

【考察】本研究で得られた結果により、SCI 尺度上位群すなわちコミュニティ感覚が高い群はそれが低い群よりも精神障害者に対する社会的距離が短く偏見が少なかった。つまり本研究は、コミュニティ感覚と偏見の関連を明らかにできた。

コミュニティ感覚の 4 要素によって表現される他者との共感的関係の所有は、精神障害者との間にも共感的な人間関係を志向する傾向をもたらし、社会的距離を小さくするのだろう。しかし、コミュニティ感覚が高いからといって精神障害者のイメージが良いという結果にはならなかった。人間の連帯の形成と同時に、精神障害の正確な理解のための教育も地域における偏見低減のために必要である。

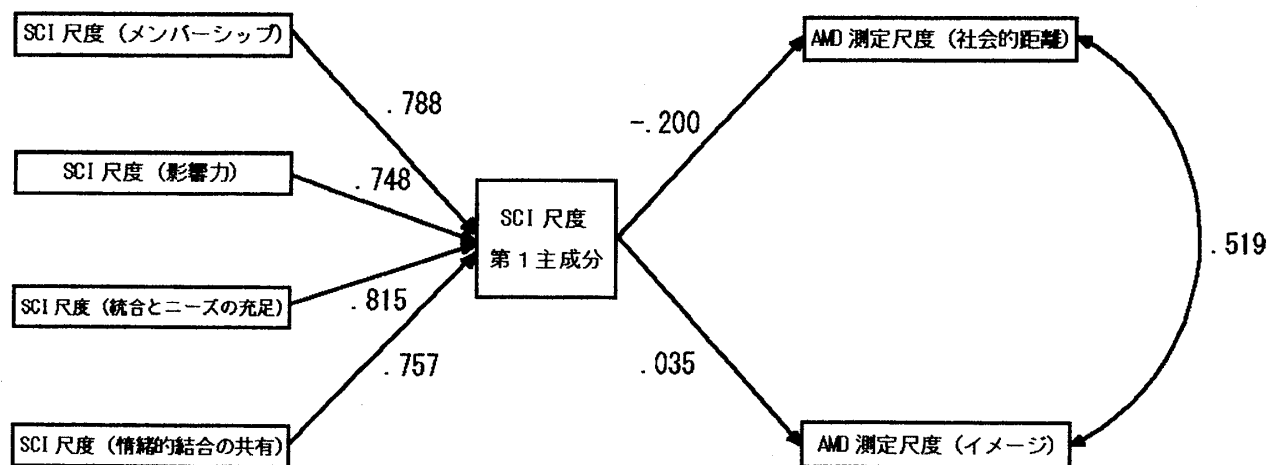


Fig. 1 コミュニティ感覚と精神障害者に対する偏見との関連